

## もっと安心農産物 春大根栽培暦

かとり農業協同組合 多古町園芸部 大根部会 もっと安心生産班

1. 土づくり ☆完熟堆肥又は緑肥を施用する。 2. 施肥 ☆施肥診断にもとづく施肥量の遵守

◎化学肥料由来の窒素成分量の上限として7.5kg/10aまで

※「多古根菜ブリケット」については上限約140kg (化成肥料由来窒素7.4kg)まで施用可能です。

※「レオユーキL」については上限約100kg (化成肥料由来窒素7kg)まで施用可能です。

※窒素が不足する場合には「ヘルシー有機」「味好1号(6-8-4)」「味好2号(7-2-7)」で増肥して下さい。(有機100%のため使用量の制限は一切ありません。) ※ホウ素欠乏症により肥大根中央部の褐変症状が現れる場合の対策としてFTEやマルチサポート1号などのホウ素を含む資材を施用する。

肥料名	施肥量 (kg)	10a 当たりの成分施用量			化成肥料由来窒素
		窒素	リン酸	加里	
施肥例1 多古根菜ブリケット (9-13-8 内有 N3.7%)	80	7.2	10.4	6.4	4.24
	リンスター30	40	0	12	0
	苦土石灰	60	0	0	0
施肥例2 レオユーキL (8-8-8 内有 N1%)	80	6.4	6.4	6.4	5.6
	オールアッシュ PK455 (0-14-15-苦土5)	40	0	5.6	6
	苦土石灰	60	0	0	0

3. 防除 ☆防除暦の遵守 **化学合成農薬6成分回数以下※ユニフォーム粒剤については成分回数2カウントになりますのでご注意ください。**★「スピノエース顆粒水和剤」2500倍 収穫7日前まで 3回以内【コガ、アムシ】★「ゼンターリ顆粒水和剤」1000倍 発生初期但し収穫前日まで【コガ、ヨウムシ、アムシ、オカガ、ハモンヨウ、シロイモリ、ヨト】★「Zボルドー」500倍【黒斑細菌病、白さび病】★「スラゴ」1~5g/平方m【ナメクジ類、カタツムリ類】★については防除回数に含まない。

薬剤名	希釈倍数 処理量	対象病害虫	使用時期 使用回数	備考 (耕種的防除の 実施等)
D-D (1) または クロピク 80 ドロクロール (1)	1.5~2ml/穴 15~20L/10a	初サセチュウ、ネゴサセチュウ、コガネ ムシ類幼虫	作付の10~15日前まで 1回	緑肥(マリーゴールド、ヘイオーツ を作付する。)
	2~3ml/穴	亀裂褐変症	1回	
ネマトリンエース粒剤 (1)	①15~25kg/10a ②15~20kg/10a	①初サセチュウ ②ネゴサセチュウ	播種前・1回	
フロンサイト粉剤 (1)	30~40kg/10a	亀裂褐変症 (リゾグリア菌による)	播種前・1回	
フォース粒剤 (1)	6~9kg/10a	キジノハムシ	播種時・1回	全面土壌混和
	4~9kg/10a	キジノハムシ、タネハエ		播溝土壌混和
	6kg	キジノハムシ	収穫14日前まで・3回	株元散布
ブリロッソ粒剤 (1)	6kg/10a	アムシ、アブラムシ類、コガ、 カブラバチ、キジノハムシ、ハマダラ メダカ、ネリムシ類	播種時・1回 播溝土壌混和	
アドマイヤー1粒剤 (1)	3~6kg/10a	アブラムシ類	播種時・1回	
ユニフォーム粒剤 (2) ※	6~9kg/10a	白さび病	播種前・1回	
アミスター20フロアブル (1)	2000倍 100~300L/10a	白さび病 ワッカ症	収穫14日前まで 3回以内	
スタークル顆粒水溶剤 (1)	1000倍	キジノハムシ	収穫7日前まで 2回以内	
	2000~3000倍	アブラムシ類		
	2000倍 100~300L/10a	ダイコンハムシ		
ウララ DF (1)	2000倍 100~300L/10a	アブラムシ類	収穫前日まで 2回以内	

月	11月~12月	1月	2月	3月	4月
防除	コガ ←————→ キジノハムシ・アブラムシ ←————→			黒斑細菌病・べと病 ←————→ アブラムシ・ハマダラハエ ←————→	